

# 介護職員32万人不足

厚労省25年度推計

## 人材確保間に合わず

厚生労働省は9日、団塊

の世代が全員75歳以上になると2025年度に、介護職員が全国で約243万人必要になるとの推計を発表した。19年度は約211万人

で、約32万人が不足してい

ることになる。現状の人材確保ペースでは間に合っておらず、対策の強化が急務

となっている。

また高齢化がほぼピークになる40年度についても初めて推計。必要職員数は約280万人にまで増えること

している。

介護職員数の推移  
約98万人不足

2019年度	必要数	40
	必 要 数	25

※厚生労働省による

政 府は介護職員の待遇改善などによる人材確保を進めている。現在の増加ペースが続くという想定で試算すると、確保できる職員数は25年度が約221万人、40年度は約215万人で、いずれも必要職員数とは大きな開きがある。40年度に確保できる職員数が25年度より減るのは、介護職員自身が高齢化し、離職するケースが増えるためだといふ。

25年度の必要職員数を都道府県別に見ると、東京が約22万人で最も多く、大阪約21万人、神奈川約17万人と続いた。福井は約1万2600人。

介護職員の必要数は、市

区町村が3年ごとに事業計画を見直すのに合わせ、3年に一度公表している。推計方法が異なるため単純比較はできないが、前回は25年度の必要数を約245万

人としていた。